

低身長のボクだけど、
出会い系サイトを
使って、童貞を
卒業できた。



うむ。

大岩雄大
おおいわゆうだい

エッチの気持ちよさを
知ったボクは、もつと
色んな体験を
したくなった。



ゆう
男/20歳
学生

メールする⇒

・自己紹介・

子供みたいに小柄ですが、あそこは大きいです
何度でも射精できる特殊体質です。
いろんなエッチに興味があります。
ハードなエッチにも興味あります。
好きなタイプは、背が高く、爆乳、ムチムチ美女
です。
痴女美人姉妹さんにおもちゃにされたら
最高です。
ちょっと変態プレイにも興味あります。

どうせなら、
と思つて、
目いっぱい希望を
記入した。

我ながら、無茶な希望
だと思つただけけど、
すぐにメッセージが来た！



おっ



出会いサイト
ワクワク
ワールド

ログイン

新規登録

運命の人を見つけよう！

低身長のボクは、
爆乳姉妹に愛される！

(上巻) 作・画 窪リオン



雪
22歳 大学生

雪さんと蘭さんは、
姉妹ということ
だったけど……

本当に
小さいね〜

タイプは違うけど、
色々巨大!と思った。

蘭
21歳 大学生

あー
うー

おは
は♡

アア

HOTEL
Secret Resort

Your relaxing space

今回は、
南国リゾート風の
ホテルだった。

早速、
ラブホテルに
三人で行った。

ね、
リゾートっぽい

わあ

雪さんと蘭さんは、
ホテルに来るのに
慣れてる感じが
した。

アッ

くつろいで

さあさあ

じゃあ、
ベッドに寝て

あーっ

綺麗なお姉さんに
優しくされて、
凄く気持ちよかった。

雪さんは、
積極的に
誘ってきた。

さっそく、
自慢のおチンチン、
見せてね



チンチン

ううう...



ああ……

うう

うう

色気ある
お姉さんに囲まれて、
僕は興奮していた。

チンコも既に
ギンギンに
なっていた。

わあ！
本当に大きいね！！

おはー

ああ、
凄い……

ふふ

その勃起チンコを
二人にじっくり
見られて

恥ずかしかった
けど、凄く感じて
しまった。



はー

はー

雪さんは、
おもむろに
足を上げた。



あーっ？

いきなり
踏まれて驚いた！

あ
あ

あ
あ



すっごい
変態チンポ！

雪はね、
DSの淫乱
変態女なの

初めての
踏みつけプレイ
だったけど、

思いのほか
興奮したし、
気持ちよかった。



あ
はっ

もう
恥ずかしい液
でてるし！



チンコを踏まれた
状態で、蘭さんが
キスしてきた。



蘭さんの唇は
柔らかく、
気持ちよかった。

蘭さんは、
凄く良い匂いが
した。



たつぷりとキスを
した後、蘭さんは
服を脱いだ。



気持ちよく
なりましようね

むっちりした体に、
エッチな下着がとても
よく似合っていて……

僕はさらに
興奮した。

蘭さんは僕に
おっぱいを
吸わせてきた。

大きくて重い
おっぱいが、僕の
顔に乗っていた。

雪さんは、興奮
して膨張した僕
のチンコを、

しっかりと
足でつかみ、
しごいてきた。

僕は蘭さんの
おっぱいを口いっぱい
に頬張り、乳首を舌で
舐めまわした。

興奮が極限に
達しようとしていた。



僕は盛大に
射精した。

わあっ

どひひひ
けいん

大量の精子が
噴き出している
感じがあった。



息苦しさの中、
射精すると、

いつもより
快感が強かった。

はあ...
はあ

ああ...
あ

気持ちよさが
全身を駆け
巡っていた。

どろろ

どろろ



ソックス
どろどろ

す、すいません

謝らないの。
変態なんだから

足コキで射精
したのは初めて
だったけど、

想像以上に
気持ちよかった。



正直に
おねだりしなさい

1430



もっとチンポ
こすってください、
とか

お姉ちゃんの
おマンコ
舐めたいです、とか

へっあっ

雪さんは、
精子まみれの
チンコを念入りに
しゃぶってくれた。



お、お姉ちゃんの
おマンコ見ながら、
おチンチン愛撫
されたいです！



アナル舐められながら、
変態チンポしごかれて、
精子びゅうびゅう
出したいです！

わあ、いいね、
それ！



好きなかだけ
甘えられる感じが
最高だった。

じゃあ、
お姉ちゃんの
おマンコ、
じっくり見てね



エッチな
お姉ちゃんに、
おもちゃに
されたかった。

蘭さんは、
きれいなパイパンを
広げて見せてくれた。

チンポギンギン
だね

興奮する僕の
硬直チンコを、
雪さんはしごきながら、

アナルを念入りに
舐めてくれた。



しつとり濡れる
おまんこを見上げ
ながら、
チンコ愛撫される
のは最高だった。

私も気持ち
よくして！

二人に喜んで
もらえるのも
嬉しかった。



蘭さんは、僕の顔に座り、おマンコを押し当ててきた。

あ、あ、あ、ん

僕は口を開け、舌を伸ばし、

おマンコとクリトリスを懸命に舐めようとした。

ビクン

雪さんは、亀頭を舌で舐めまわしながら、

竿をしごきまくってくれた。

びゅ

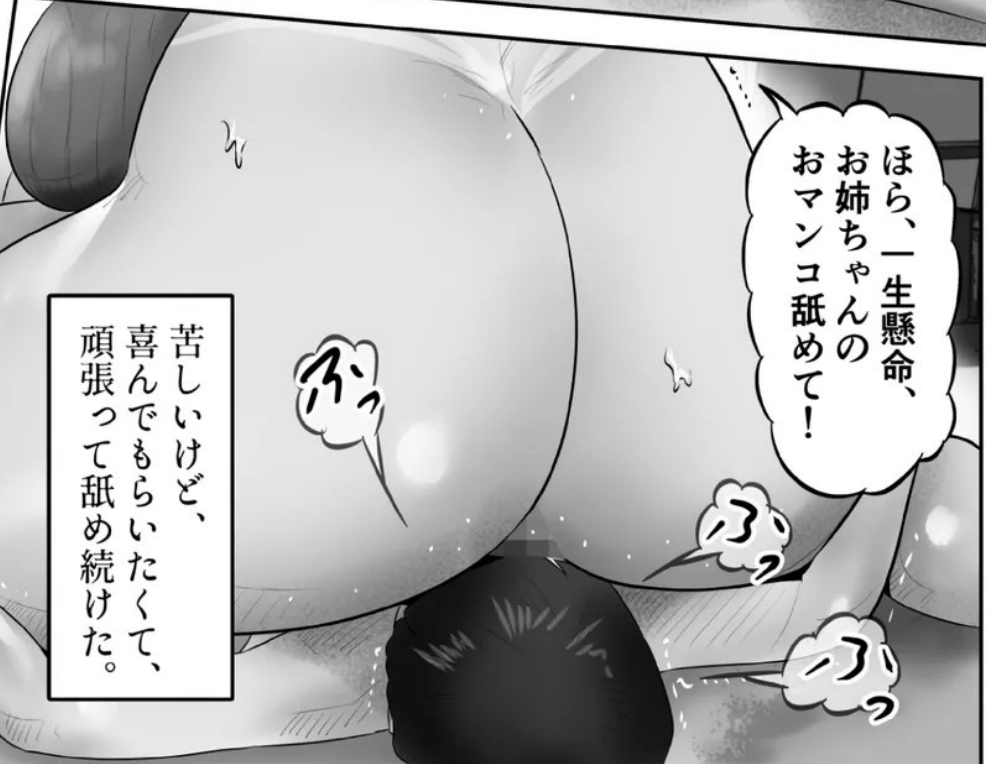
ん

ん

ん



苦しいほど、チンコは硬くなり、雪さんの愛撫が気持ちよくなった。



ほら、一生懸命、お姉ちゃんの おマンコ舐めて！

苦しいけど、喜んでももらいたくて、頑張つて舐め続けた。

ん

ん

ん

ああ、上手い、
おマンコ気持ちいい！
最高！
最高の弟だよ！！

あ
あ

蘭さんが感じて
くれるのが
嬉しかった。

う
あ
ん

れ
ろ

れ
ろ

僕は、おマンコの
奥まで舌を入れて
舐めまわした。

お姉ちゃんに
精子
飲ませなさい！

く
ちゅ
く
ちゅ
く
ちゅ

雪さんが、
チンコをしごく
スピードが上がった。

濃厚精子、
たっぷり
出すのよ！

亀頭を咥えられ、
舌で舐めまわされると、

激しい快感が
僕を襲った。

ビ
ク
ビ
ク





チンコも洗いながら、
愛撫してくれた。



しっかりと綺麗に
しましうね

こっちも
洗うよ

二人は体を密着させて、
全身を洗ってくれた。



温まり
ましよう

僕も、お返し
したかった。



もつちりした二人の
体は、どつても
気持ちよかった。

あー
あー

僕は、二人に
されるがまま、
愛撫され続けた。

雪さんは、
僕の唇を吸い、
舌を絡ませてきた。

んんんん

蘭さんは、
硬直チンコをしゃぶり、
吸い、しごいてくれた。

んんんん

雪さんのキスは、
優しく、とっても
気持ちよかった。



蘭さんのフェラチオも
気持ちよく、
凄く幸せだった。

蘭さんは、喉の奥まで
チンポをしゃぶって、
愛撫してくれた。

ほら、
変態チンポから
精子だして



龟头を口に含み、
舌を素早く動かして
舐めまわしてきた。



はああ、
出る〜

僕は興奮し、
蘭さんの口の中で
何度も射精した。

ああ、また、
いっぱい出たね〜

喜んでもらえるのが、
やはり、嬉しかった。





美味しい!

すっごく
美味しいよ!

美味しいと
言われると凄く
嬉しく興奮した。



蘭さんも、
僕の精子を飲み
込んでくれた。



雪のおマンコも
舐めてあげて

は、はい

二人をもっと
気持ちよくして、

僕の精子を体内に
注ぎ込みたかった。



ああ、そう、
いいよ

はあむ、

おマンコ、
気持ちいいよ！



僕は雪さんのおマンコに
しゃぶりついた。

クリトリスを
丸く舐め、おマンコの中
に舌を挿入し、
膣肉を押し
ように愛撫した。

ちゅ
ちゅ
ちゅ

んっ
あっ



ん、いいよ、
やってみて

おマンコに手を
いれて、いっばい
刺激したかった。

フェイストファックは
僕のお気に入り
プレイになっていた。



喜んでもらえる
僕の興奮も高まった。

お、おマンコに手、
入れてもいい？

僕は、雪さんの濡れまくったおマンコに手を添えた。

どうかな？

いよ

割れ目に指先を入れると、温かい肉ひだを感じる事ができた。

軽く押すだけで、手がどんどん入っていった。

クチャ

クチャ

ああ！ あっ！
あっ！
凄い！ あっ！

あ

雪さんのおマンコは柔らかかった。

クチャ

わー、凄い！
手首まで入っちゃった！

わーお！！

あ

ああ、おマンコにゆうを感じるよ！

うあ

めちやくちやにかき回して！

ピ

ピ

ピ

僕は手首を
回転させ、
指先を動かした。

あああああ、
なにコレ！
凄い！
どうなってるの!?

膣内のあらゆる部分を
刺激できるように、
細かく複雑に
動かした。

ビキ
ビキ

あ
あ

あ
あ

ぐ
ぐ
ぐ

ビキ
ビキ
ビキ

あ
あ



愛液がひたすら
溢れてきて、興奮した。

あああ、
イク、
イクイク……

クールな雪さんを、
徹底的に気持ちよくして、
イカせたかった。





突然、雪さんは
体を痙攣させた。



激しい潮吹きと
共に、雪さんは
昇天した。

すごいいねー

私のおマンコにも、
手、入るかな？

手でおマンコの
気持ちよい部分を、

上手に刺激できる
ようになれたと
思っで嬉しかった。

蘭さんのおマンコにも手を入れることになった。

蘭さんのパイパンマンコは、愛液で濡れていて、手がするすると入っていった。



ぬるぬるして温かいおマンコは最高だった。

ああっ！ あっ！ 凄い！ 気持ちいい！！

ビキッ



膣壁を撫でると感じてくれるのが嬉しかった。

簡単に手首まで入った。



拳がおマンコに包まれてる感じがたまらなかった。

わあ、おマンコにずっぽり入っちゃったね

あはっ



私も、またして欲しくなっちゃった



僕は、蘭さんと雪さんのおマンコに、同時に手を入れて愛撫した。

二人のおマンコが僕の手を締め付けてきた。



おマンコの中で手を回転させると、愛液が溢れてきた。

僕のおマンコ愛撫で二人共、気持ちよくなってるのがわかって興奮した。



僕は、さらに
激しく手を動かした。



手におマンコの
褻がからみついて、



いやらしい音を
立てていた。

ぐちゃ



二人は感じ続けて
いるようだった。

ああ、
イっちゃう！
イっちゃう！！

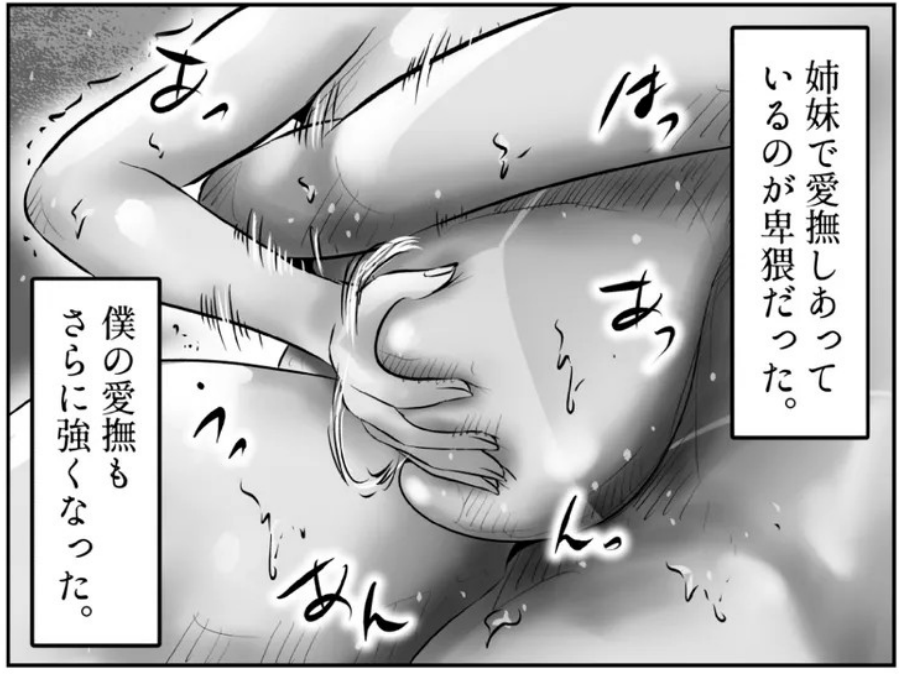
あー
あー



一緒にイこう！

おマンコが
ぎゅぎゅと僕の
手を締め付けていた。

姉妹で愛撫しあって
いるのが卑猥だった。



僕の愛撫も
さらに強くなった。



二人は
ビクンビクンと
何度も痙攣しながら
イッた。

愛液が噴出し、
あたりに
飛び散った。

おマンコは
ヒクヒクと動き、

僕の手を
飲み込もうと
しているようだった。

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

あー

あー

あー

びしょ
びしょ
びしょ

あー

あー

びしょ

びしょ

びしょ



気持ちよかった

最高の弟よ

おは

チュッ

二人を同時にイカせることができて、僕も凄く嬉しかった。

雪さんと蘭さんは丁寧に僕を拭いてくれた。

こんなお姉さんがいたら、本当に幸せだと思った。

ほむん



蘭はドMだから、いっぱいいじめていいのよ

大量の精子を、二人のおマンコに注ぎ込みたかった。

ふふ



チンコはずっと、ビンビンなままだった。

今度は、この巨大チンポ、おマンコにちょうだい

ムクムク

ムクムク

雪さんは、
蘭さんに手枷と
口枷をした。

蘭はね、アナル
いじられるのが
大好きな
変態マゾ女なの

ん！
ん！
ん！

僕は、不自由な女の人を
見ると、興奮する
ようになっていた。

ん
ん
ん
ん
ん

ん
ん
ん

いっぱい
いじめてあげて

アナルを責める
玩具は初めてだった。

ワクワクした。

ん
ん
ん



僕は蘭さんに
またがり、玩具を
アナルに添えた。



蘭さんのアナルは、
ひくひくと
動いていて、
快感を期待して
いるように思えた。

ローションに
濡れた玩具は、

わん
わん

アナルに
ゆるにゆると
入っていった。

蘭さんの震えが
伝わってきて、
興奮した。



そう、いいよ、
二人でいっぱい
いじめましょう！



雪さんの言葉で、
さらに興奮度が
アップした。

下巻に続く